

ジャック・ラカン「《盗まれた手紙》についてのセミナー」の翻訳(1)

著者	財津 理
出版者	法政大学多摩論集編集委員会
雑誌名	法政大学多摩論集
巻	34
ページ	115-128
発行年	2018-03
URL	http://doi.org/10.15002/00014475

ジャック・ラカン「《盗まれた手紙》」についての セミナー」の翻訳 (1)

財 津 理

はじめに

本翻訳は、インターネットで公開されているラカンのフランス語テキスト *Le Séminaire sur « La lettre volée » prononcé le 26 avril 1955 au cours du séminaire Le moi dans la théorie de Freud et dans la technique de la psychanalyse fut d'abord publié sous une version réécrite datée de mi-mai, mi-août 1956, dans La psychanalyse n° 2, 1957 pp. 15-44 précédé d'une « Introduction », pp. 1-14* の第1段落から第18段落までの訳である。以前に発表した【研究ノート】：『ジャック・ラカン「《盗まれた手紙》」についてのセミナー」の翻訳と注釈 (1)』（法政大学『経済志林』Vol.78, No.4 2011/3/10 所収）の翻訳部分（第1段落から第5段落）に修正を加えたものを再録する。翻訳する段落の順序は、*Le Séminaire sur « La lettre volée »*, in *ÉCRITS*, (ÉDITION DU SEUIL, 1966) に合わせて変更した。すなわち、上記論文では冒頭に置かれている「序 INTRODUCTION」は、*ÉCRITS* では末尾に置かれている。訳出は *ÉCRITS* の順序に従っているが、翻訳文そのものは全面的に上記ネット・テキストに準拠しているので、このテキストを段落ごとに再現する。段落内の文章は一文ずつ切り離して翻訳し、各文に番号を付した。なお、詳しい注釈は、全テキストの翻訳が完了してから改めて作成する予定である。なお、この翻訳は、財津が主宰するラカン読書会のメンバー、岡本広由、西川直樹 小出義治 磯村大による議論から多くのものを得ている。

凡例

() は原文にある記号。

[] は、原語あるいは訳者による補いを示すための記号。

〈〉は、文意を取りやすくするために訳者が挿入した記号。
 斜体の原語は、訳語も斜体にした。

エピグラフ

sonde ^エそれ ^ス^[注1] がおいらに運よくできるなら、
 sonde ^エそれが ^スうまく運ぶなら、
^エそれが ^ス思考 = 思想というもんだ。〔ゲーテ『ファウスト』2458～2460〕

Und wenn es uns glückt,
 Und wenn es sich schickt,
 So sind es Gedanken.

第1段落

① われわれは、研究を続けた結果、以下のことを再認するに至った。すなわち、反復自動症〔*automatisme de répétition*〕（反復強迫〔*Wiederholungszwang*〕^[注2]）の原理は、われわれが〈記号的に意味する連鎖^[注3]〉の〈執拗な存立〔*insistance*〕〉と呼んだもののなかで把捉される^[注4]ということである。

② この概念そのもの〔すなわち、執拗な存立 *insistance*〕を、われわれは、〈外への - 存立〔*ex-sistence*〕^[注5]〉（すなわち、中心から外れた場所）と関連するものとして明らかにしたのであって、われわれは、フロイトの発見を真剣に把捉するべきである以上、その〈外への - 存立〉（すなわち、中心から外れた場所）に、無意識の主体を位置づけなければならない。

③ 象徴的なもの〔象徴界、あるいは記号的に意味する連鎖、象徴的連鎖〕についてのそうした把捉^[注6]が、人間の生体のもっとも内奥のところまで働くのは、想像的なもの〔想像界〕をどのように經由することによってであろうか。これを理解することができるのは、よく知られているとおり、精神分析によって創始された経験においてである。

① Notre recherche nous a mené à ce point de reconnaître que l'automatisme de répétition (*Wiederholungszwang*) prend son principe dans ce que nous avons appelé l'insistance de la

chaîne signifiante.

② Cette notion elle-même, nous l'avons dégagée comme corrélative de l'*existence* (soit : de la place excentrique) où il nous faut situer le sujet de l'inconscient, si nous devons prendre au sérieux la découverte de Freud.

③ C'est, on le sait, dans l'expérience inaugurée par la psychanalyse qu'on peut saisir par quels biais de l'imaginaire vient à s'exercer, jusqu'au plus intime de l'organisme humain, cette prise du *symbolique*.

第2段落

① このセミナーの教育が行われるのは、以下のことを主張するためである。すなわち、そうした想像的諸影響は、それら想像的諸影響を結び付け方向づける象徴的連鎖^[註7]に関係づけられるにしても、われわれの経験の本質的なところを表すどころか、反対にその不整合なところしか告げてくれない、ということである。

① L'enseignement de ce séminaire est fait pour soutenir que ces incidences imaginaires, loin de représenter l'essentiel de notre expérience, n'en livrent rien que d'inconstant, sauf à être rapportées à la chaîne symbolique qui les lie et les oriente.

第3段落

① なるほどわれわれは、〈記号的に意味する連鎖〉の進み具合であるあの偏り、すなわち象徴的交替のあの偏り^[註8]における想像的刷り込み (*Prägung* 刻印づけ)の重要性を知っている。

② しかしわれわれは、その連鎖に固有な法〔loi〕こそが、主体にとって決定的な精神分析的諸結果を支配しているということを主張する。精神分析的諸結果とは、たとえば、「排除 *forclusion* (*Verwerfung*)」、「抑圧 *refoulement* (*Verdrängung*)」、「否定 *dénégation* (*Verneinung*)」そのものである。——われわれは、それら諸結果が、たいへん忠実にシニフィアン〔記号的に意味するもの〕の置き換え (位置変更)^[註9]に従っているので、想像的諸要因が、慣性を有しながらも、そこでは影や反映のような姿しか呈さないということを、しかるべく強調して明言しておく。

① Certes savons-nous l'importance des imprégnations imaginaires (*Prägung*) dans ces partialisations de l'alternative symbolique qui donnent à la chaîne signifiante son allure.

② Mais nous posons que c'est la loi propre à cette chaîne qui régit les effets psychanalytiques déterminants pour le sujet : tels que la forclusion (*Verwerfung*), le refoulement (*Verdrängung*), la dénégation (*Verneinung*) elle-même, — précisant de l'accent qui y convient que ces effets suivent si fidèlement le déplacement (*Entstellung*) du signifiant que les facteurs imaginaires, malgré leur inertie, n'y font figure que d'ombres et de reflets.

第4段落

① とはいえ、そうした強調が、あなた方の判断にとっては、以下のような或一般的な形式の諸現象を抽象的に取り出すことにしか役立たないということにでもなれば、無駄に浪費されたということになってしまうだろう。すなわち、或一般的な形式の諸現象とは、われわれの経験においては特殊であるが、その特殊性があなた方にとっては本質的なままであるような諸現象、しかも〔精神分析の〕技法がなければその諸現象の独特の〔想像界と象徴界との〕混成状態は解消されないような諸現象のことである。

① Encore cet accent serait-il prodigué en vain, s'il ne servait à votre regard, qu'à abstraire une forme générale de phénomènes dont la particularité dans notre expérience resterait pour vous l'essentiel, et dont ce ne serait pas sans artifice qu'on romprait le composite original.

第5段落

① だからこそわれわれは、われわれが研究しているフロイトの思想を契機として顕わになる真理、すなわち、主体にとってものごとの構成要因となるのは象徴的秩序であるという真理を、今日あなた方のために例証しようと考えたのである。しかもそうするのは、主体がひとつのシニフィアンの経路から受け取る主要な決定を、或る物語〔ポー『盗まれた手紙』〕のなかであなた方に論証することによってである。

① C'est pourquoi nous avons pensé à illustrer pour vous aujourd'hui la vérité qui se dégage du moment de la pensée freudienne que nous étudions, à savoir que c'est l'ordre symbolique qui est, pour le sujet, constituant, en vous démontrant dans une histoire la détermination majeure que le sujet reçoit du parcours d'un signifiant.

第6段落

- ① フィクションの存在そのものを可能にしているのはまさにそうした真理であるということにわれわれは注目しよう。
 - ② したがって、ひとつの作り話〔フィクション〕は、他の物語〔フィクション〕と同じように、それ〔真理〕を明るみに出すのに適している——たとえその場合、それ〔作り話〕の首尾一貫性を吟味せざるを得ないにしても、そうである。
 - ③ このような留保条件を別にすれば、人々はそれ〔作り話〕が恣意性によって支配されていると信じることができるかもしれないだけに、それ〔作り話〕はますます純粋に象徴的必然性を明示するという優れた点をもちさえするのである。
- ① C'est cette vérité, remarquons-le, qui rend possible l'existence même de la fiction.
 - ② Dès lors une fable est aussi propre qu'une autre histoire à la mettre en lumière, – quitte à y faire l'épreuve de sa cohérence.
 - ③ À cette réserve près, elle a même l'avantage de manifester d'autant plus purement la nécessité symbolique qu'on pourrait la croire régie par l'arbitraire.

第7段落

- ① こういうわけで、われわれは、我々の事例を、もっと遠くまで探しに行かないで、その物語〔ポー『盗まれた手紙』〕そのものから取った。その物語とは、われわれがつい最近利用した偶数か奇数かのゲームに関する弁証法が挿入されている物語である。
 - ② すでにそこ〔その弁証法〕に支えを見出しているひとつの研究コースを開講するにあたってこの物語が好都合であると明らかになったのは、おそらく偶然ではないだろう。
- ① C'est pourquoi sans chercher plus loin, nous avons pris notre exemple dans l'histoire même où est insérée la dialectique concernant le jeu de pair ou impair, dont nous avons le plus récemment tiré profit.
 - ② Sans doute n'est-ce pas par hasard que cette histoire s'est avérée favorable à donner suite à un cours de recherche qui y avait déjà trouvé appui.

第 8 段落

① おわかりのように、いま問題にしているのは、ボードレールが《la lettre volée [盗まれた手紙]》というフランス語の題名で翻訳した短編小説である。

② 最初から、ひとはそこ [短編小説] において、一つのドラマを、それについてなされるナレーションから、またこのナレーションの諸条件から区別するだろう。

① Il s'agit, vous le savez, du conte que Baudelaire a traduit sous le titre de : la lettre volée.

② Dès le premier abord, on y distinguera un drame, de la narration qui en est faite et des conditions de cette narration.

第 9 段落

① そのうえ、ひとはすぐに、どうしてそれら合成諸要素が必要になるのかを見て取るし、またそれらが、それらを組み立てた者のもろもろの意図から逃れ得なかったということを見て取る。

① On voit vite au reste ce qui rend nécessaires ces composants, et qu'ils n'ont pu échapper aux intentions de qui les a composés.

第 10 段落

① そのナレーションは、確かに、そのドラマに或る注釈を加えているのであって、もしもその注釈がなかったら、演出は可能ではなくなってしまうだろう。

② [もしもその注釈がなかったら] 言ってみれば、そのドラマのアクション / 筋は、厳密に語るならば観客 / 読者から見えないままになってしまうだろう。

③ ——さらに言うなら、そのドラマのせりふは、そのドラマに関係しうるあらゆる意味を、どの聴取者にとっても、意図的にかつそのドラマに必要なものがゆえに欠いていると思われてしまうだろう。

④ ——言い換えるなら、そのドラマを演じるときに俳優たちの一人が持っていた視点から、ナレーションがそれぞれのシーン / 光景に与えるところの、そうやってよければ一定の角度のある光による照明というものがなければ、撮影しても録音しても、そのドラマに関することは何も現れることができなくなってしまうだろう。

① La narration double en effet le drame d'un commentaire, sans lequel il n'y aurait pas de

mise en scène possible.

② Disons que l'action en resterait, à proprement parler, invisible de la salle,

③ – outre que le dialogue en serait expressément et par les besoins mêmes du drame, vide de tout sens qui pût s'y rapporter pour un auditeur :

④ – autrement dit que rien du drame ne pourrait apparaître ni à la prise de vues, ni à la prise de sons, sans l'éclairage à jour frisant, si l'on peut dire, que la narration donne à chaque scène du point de vue qu'avait en le jouant l'un de ses acteurs.

第 11 段落

① それらのシーン / 光景は二つあり、その第一のシーン / 第一の光景を、われわれは直ちに原光景 / 最初のシーンという〔精神分析用語でもある〕名で指し示すのであるが、これは不注意からのことではないのであって、というのも第二のシーン / 第二の光景は、まさにここ〔この物語〕で予定されているという意味で、原光景 / 最初のシーンの反復と考えられ得るからである。

① Ces scènes sont deux dont, nous irons aussitôt à désigner la première sous le nom de scène primitive, et non pas par inattention, puisque la seconde peut être considérée comme sa répétition, au sens qui est ici-même à l'ordre du jour.

第 12 段落

① さて、『盗まれた手紙』において〕ひと〔警視総監〕がわれわれに話すところによれば、その原光景 / 最初のシーンが演じられるのは王宮の閨房のなかなので、一通の手紙を受け取るときに、その閨房のなかにたった一人であるもっとも身分の高い人物、それも高貴な方と言われる人物は、王妃ではないかとわれわれは思う。

② こうした気持ちは、もう一人の高貴な人物の入室によって彼女が陥る窮地からして堅固なものになる。というのも、そのもう一人の高貴な人物について、ひと〔警視総監〕は、その話の前に、われわれに次のように語っていたからである。すなわち、そのもう一人の高貴な人物が知り得るでもあろう当該の手紙の内容が、その婦人に対して、まさしく彼女の名誉と安全そのものを危うくするだろう、と。

③ D 大臣の入室とともに始まるシーン / 光景に応じて、われわれは実際、まさに王が問題になるということをしるやいなや疑わなくなる。

④ 事実このとき、王妃は、テーブルの上を手紙を「ひっくり返して、あて名を上にして」置きっぱなしにして、王の不注意に賭けることよりもっと上手いやり方はできなかった。

⑤ けれども、この手紙は、大臣の山猫のような鋭いまなざしから逃れることはできないし、また、大臣は必ず、王妃の狼狽に気づき、彼女の秘密を見破る。

⑥ これ以後、すべては、あたかも時計のなかで起こるように繰り返される。

⑦ 大臣は、いつもの調子と才気でもって通常の仕事を片付けた後、彼の目の前にある手紙と外観が似ている一通の手紙をポケットから取り出し、そして読むふりをしてからその手紙を前者の手紙の脇に並べて置く。

⑧ 彼は、さらに王の注意を逸らす言葉を幾らか口にしてから、その厄介な手紙を無造作につかみ取って立ち去ってしまい、その間、王妃は、大臣の巧妙なやり口を何ひとつ見逃さなかったが、そのとき彼女の横にいた王たる夫の注意を呼び覚ますのを恐れて動くことができなかった。

① La scène primitive donc se joue, nous dit-on, dans le boudoir royal, de sorte que nous soupçonnons que la personne du plus haut rang, dite encore l'illustre personne, qui y est seule quand elle reçoit une lettre, est la Reine.

② Ce sentiment se confirme de l'embarras où la plonge l'entrée de l'autre illustre personnage, dont on nous a déjà dit avant ce récit que la notion qu'il pourrait avoir de ladite lettre, ne mettrait en jeu rien de moins pour la dame que son honneur et sa sécurité.

③ Nous sommes en effet promptement tirés hors du doute qu'il s'agisse bien du Roi, à mesure de la scène qui s'engage avec l'entrée du ministre D...

④ À ce moment en effet, la Reine n'a pu faire mieux que de jouer sur l'inattention du Roi en laissant la lettre sur la table « retournée, la suscription en dessus ».

⑤ Celle-ci pourtant n'échappe pas à l'œil de lynx du ministre, non plus qu'il ne manque de remarquer le désarroi de la Reine, ni d'éventer ainsi son secret.

⑥ Dès lors tout se déroule comme dans une horloge.

⑦ Après avoir traité du train et de l'esprit dont il est coutumier les affaires courantes, le ministre tire de sa poche une lettre qui ressemble d'aspect à celle qui est en sa vue, et ayant feint de la lire, il la dépose à côté de celle-ci.

⑧ Quelques mots encore dont il amuse le royal tapis, et il s'empare tout roidement de la

ジャック・ラカン「《盗まれた手紙》についてのセミナー」の翻訳 (1)

lettre embarrassante, décampant sans que la Reine, qui n'a rien perdu de son manège, ait pu intervenir dans la crainte d'éveiller l'attention du royal conjoint qui à ce moment la coudoie.

第 13 段落

① したがって、そこにおいて誰もしくじらなかったその作戦/演算のひとりの理想的な〔ありえないほどの〕傍観者〔何もしない王〕にとってなら、一切は気づかれずに済むこともできただろう。そして、その作戦/演算の商〔答〕は、大臣が王妃から彼女の手紙を盗んだということであり、またこちらのほうがはるかに重要な解答であるが、王妃は、その手紙をいま保持しているのは大臣であり、それも悪意をもたずにそうしているのではない、ということを知っているということである。

① Tout pourrait donc avoir passé inaperçu pour un spectateur idéal d'une opération où personne n'a bronché, et dont le quotient est que le ministre a dérobé à la Reine sa lettre et que, résultat plus important encore que le premier, la Reine sait que c'est lui qui la détient maintenant, et non pas innocemment.

第 14 段落

① シニフィアンに関することなら何でも考慮に入れておかなければならないと羨けられていても、だからといって必ずしもそれをどうするべきかわかっているわけではない精神分析家なら、誰でもが切り捨てない余りがある。それはすなわち、大臣からは放棄され、王妃の手によっていまや丸められて〔捨てられても〕よい手紙である。

① Un reste qu'aucun analyste ne négligera, dressé qu'il est à retenir tout ce qui est du signifiant sans pour autant savoir toujours qu'en faire : la lettre, laissée pour compte par le ministre, et que la main de la Reine peut maintenant rouler en boule.

第 15 段落

① 第二のシーン / 第二の光景、大臣の執務室。

② それは、大臣の官邸のなかにある。そして、謎解きに適したデュパンの才能をこうした状況でポーが導入するのは二度目なのだが、そのデュパンに警視総監が

それ〔盗まれた手紙〕について語って聞かせた話から、われわれは次のことを知っている。すなわち、大臣がふだん夜は不在なので、警察は、十八ヵ月前からできる限り頻繁に官邸に出入りして、官邸とその周辺をくまなく搜索したということである。

③ だが——誰でもが、状況からして、大臣がその手紙を手の届くところに保存しているということを推論できるにもかかわらず——その搜索は無駄であった。

① Deuxième scène : dans le bureau du ministre.

② C'est à son hôtel, et nous savons, selon le récit que le préfet de police en a fait au Dupin dont Poe introduit ici pour la seconde fois le génie propre à résoudre les énigmes, que la police depuis dix-huit mois, y revenant aussi souvent que le lui ont permis les absences nocturnes, ordinaires au ministre, a fouillé l' hôtel et ses abords de fond en comble.

③ En vain, – encore que chacun puisse déduire de la situation que le ministre garde cette lettre à sa portée.

第 16 段落

① デュパンの来訪が大臣に告げられた。大臣は、まるでロマン派文学の憂愁を思わせる言葉を口にしながら、わざとらしい無頓着さで彼を迎える。

② けれども、こんな見せかけにだまされないデュパンは、緑の色眼鏡で自分の眼を隠して、部屋中の物を注意深く眺める。

③ 彼のまなざしは、ひどく傷ついた一通の手紙に向かう。マントルピースの真ん中に吊り下げられて、何か金ぴかなもので人目を引いている、ボール紙でできたちやちや名刺差しの仕切りのなかに、その手紙は差し込まれてほったらかしにされているように見える。そのときすでに彼は理解する、自分が探している物をいま目の前にしているのだと。

④ 大きさは一致しても、彼が知っている盗まれた手紙の特徴とは合致しないように見える細部によって、彼の確信はかえって強くなる。

① Dupin s'est fait annoncer au ministre. Celui-ci le reçoit avec une nonchalance affichée, des propos affectant un romantique ennui.

② Cependant Dupin, que cette feinte ne trompe pas, de ses yeux protégés de vertes lunettes,

inspecte les aîtres.

③ Quand son regard se porte sur un billet fort éraillé qui semble à l'abandon dans la case d'un méchant porte-cartes en carton qui pend, retenant l'œil de quelque clinquant, au beau milieu du manteau de la cheminée, il sait déjà qu'il a affaire à ce qu'il cherche.

④ Sa conviction se renforce des détails mêmes qui paraissent faits pour contrarier le signalement qu'il a de la lettre volée, au format près qui est conforme

第 17 段落

① これ以後デュパンのなすべきことはただ、嗅ぎ煙草入れをテーブルに「置き忘れて」から引き下がり、翌日、その手紙のそのときの外観に似せた偽造物を身に着けて、その嗅ぎ煙草入れを取りに戻ることだけである。

② 適当な頃合いに起こるよう仕組んだ騒動が往来で始まると、大臣は窓に引き寄せられ、デュパンはこれに乗じて、今度は彼が手紙を奪い取り、その代わりに偽造物を残す。そして、そのあとなすべきことはただ、うわべを取り繕ってごく普通の暇乞いをするだけである。

① Dès lors il n'a plus qu'à se retirer après avoir « oublié » sa tabatière sur la table, pour revenir le lendemain la rechercher, armé d'une contre-façon qui simule le présent aspect de la lettre.

② Un incident de la rue, préparé pour le bon moment, ayant attiré le ministre à la fenêtre, Dupin en profite pour s'emparer à son tour de la lettre en lui substituant son semblant, et n'a plus qu'à sauver auprès du ministre les apparences d'un congé normal.

第 18 段落

① そこ〔大臣の執務室〕でも、騒音がなかったわけではないが、少なくとも大騒ぎなしに、すべては行われた。

② その作戦/演算の商〔答〕は、大臣はもはや手紙を持っていないが、彼自身そのことをまったく知らずにおり、デュパンがその手紙を彼から奪うなどとは思ってもみないということだ。

③ しかも、大臣の手に残されている余り^[注 10]〔偽の手紙〕は、その後の出来事にとって無意味どころの話ではない。

- ④ われわれはいずれ、デュパンをして偽の手紙に或る一節を書き残すようにさせた動機に立ち戻ることになろう。
- ⑤ 何はともあれ、大臣がその偽の手紙を〔本物だと思って〕利用しようとするとき、デュパンの筆跡を再認させるべく書かれた次のような言葉を、当の大臣はそこに読むことができるはずである。

かくもむごき企みも、

ティエストには、まこと応報なれ、アトレには当らずとも。【注11】

これがクレビヨンの『アトレ』の一節であることを、デュパンはわれわれに教えている。

- ① Là aussi tout s'est passé, sinon sans bruit, du moins sans fracas.
- ② Le quotient de l'opération est que le ministre n'a plus la lettre, mais lui n'en sait rien, loin de soupçonner que c'est Dupin qui la lui ravit.
- ③ En outre ce qui lui reste en main est ici bien loin d'être insignifiant pour la suite.
- ④ Nous reviendrons sur ce qui a conduit Dupin à donner un libellé à sa lettre factice.
- ⑤ Quoi qu'il en soit, le ministre, quand il voudra en faire usage, pourra y lire ces mots tracés pour qu'il y reconnaisse la main de Dupin :

... *Un dessein si funeste*

S'il n'est digne d'Atrée, est digne de Thyeste

que Dupin nous indique provenir de l'*Atrée* de Crébillon.

注

【注 1】「それ」の原語は《es》であるが、この《es》を非人称代名詞とはみなさずに、あえて「それ」と訳したことについては、本翻訳「はじめに」で明示した【研究ノート】p346を参照。

【注 2】「反復自動症〔*automatisme de répétition*〕と「反復強迫〔*Wiederholungszwang*〕との関係については、同【研究ノート】p350参照。

【注 3】《la chaîne signifiante》に、ほぼ定着したと思われる「シニフィアンの連鎖」という訳語を当てず、「記号的に意味する連鎖」と直訳した。この辺の事情については、同【研究ノート】p349 参照。さらに、この《la chaîne signifiante》を、以下に現れる「象徴的連鎖 chaîne symbolique」と同義とみなす。

【注 4】「反復自動症 [automatisme de répétition] (反復強迫 [Wiederholungszwang]) の原理は、われわれが〈記号的に意味する連鎖〉の〈執拗な存立 [insistance]〉と呼んだもののなかで把捉される」を、以下のようにも意識することができる：「反復自動症 (反復強迫) は、われわれが〈シニフィアンの連鎖〉の〈執拗な存立 [insistance]〉と呼んだものに由来する」。

以下の第 1 段落③の原文における《cette prise du symbolique 象徴的なものについてのそうした把捉》の「そうした把捉 cette prise」が、この第 1 段落①の文における「prendre 把捉する (ただし受動態に変換して訳した)」という動詞を指すと思われるので、それらの対応関係を際立たせる訳し方をした。

【注 5】「外への - 存立 [ex-sistence]」については、同【研究ノート】p351 を参照。

【注 6】《prise》を「把捉」と訳す。【注 4】で言及したとおり、この《prise》を、上記の①の原文に含まれる《prendre 把捉する》という動詞 (受動態にして訳した) に由来する名詞とみなす。つまり、③は①を受けているとみなす。したがって、《le symbolique》を、たんに「象徴界」と訳さないうで、もっと具体的に①の訳文に含まれる「記号的に意味する連鎖」とみなし、「象徴的なもの」と訳した。

【注 7】《chaîne symbolique》を「象徴的連鎖」と訳す。この「象徴的連鎖 chaîne symbolique」を、「序 INTRODUCTION」における《chaîne symbolique》とみなす。ÉCRITS p 51 ~ 52 参照。

【注 8】《ces partialisations de l'alternative symbolique》を「象徴的交替のあの偏り」と訳す。「あの ces」とあるので、「象徴的交替 l'alternative symbolique」を、「序 introduction」における《alternative》あるいは《alternance》を指すとみなす。ÉCRITS p 47 参照。

【注 9】《déplacement (Entstellung) du signifiant》を「シニフィアン [記号的に意味

財 津

するもの] の置き換え (位置変更)」と訳す。「置き換え (位置変更) déplacement (Entstellung)」については、前掲【研究ノート】 p 351 参照。

【注 10】 商と余りは、第 13 段落と第 14 段落のそれに対応している。

【注 11】 ポオ『黒猫・モルグ街の殺人事件』中野好夫訳、岩波文庫、2002 年所収、『盗まれた手紙』 p252